

北爪真佐夫先生のご逝去を悼む

人文学部（日本史担当）

船 津 功

本学人文学部教授を勤められた北爪真佐夫先生が2009年12月23日に亡くなられた。北爪先生は1977年、人文学部の開設に際し日本史担当の教授として東京より赴任された。東京での北爪先生は代表的な歴史学会の一つである「歴史学研究会」の委員等として活躍されていた。各年次の「歴史学研究会」や「歴史科学協議会」等の大会報告や大会報告批判を学会誌に執筆され、日本中世史の著名な研究者の一人だった。

北爪先生と同時に採用された私は、日本史の古代・中世を北爪先生、近世・近代・北海道史を私という分担で日本史関係の科目を担当した。ちなみに当時の校舎は1号館と2号館だけだった。北爪先生が群馬県前橋市の出身で、私と同郷であり、同じ高校の先輩であることは顔合わせの時に知った。西洋史担当の高岡健次郎先生とともに歴史学の教員は社会学の教員とともに人文学部人間科学科「社会生活と人間」コースを形成した。

北爪先生は研究面では、専門の日本中世社会経済史だけではなく北海道との対比で沖縄の歴史に関心を示された。研究方法は批判・主張の色合いが濃く、本学の学風に合っていると思った。種々の校務等を積極的に引き受けられたが、研究、学会関係の分野での貢献が大きかった。大学の『紀要』『論集』の充実、研究会の開催、留研制度の改善等に努められた。「札幌学院大学選書」の制度も北爪研究委員長の下で出来たものである。図書館所蔵の「地崎文庫」を貴重本として紹介されたりした。入試問題の日本史は北爪先生と私が作成したが、受験雑誌の旺文社の模範問題集に3年連続で取り上げられたこともあった。

「社会生活と人間」コースは、後に学長、学部長、常務理事等を務められた論客が揃っており、話し好きだが訥弁気味の北爪先生は議論では遅れをとることもあった。私も調子にのって「同じ前橋でも僕は市街出身の町っ子だけど、北爪さんは赤城山の方で生まれたんでしょう」などとからかった。北爪先生からは「群馬県史料」に「北爪文書」という中世史史料があると、「北爪」の名字は城の北詰からきているというような話を聞かされた。

2002年3月に定年退職された北爪先生は前橋に戻られた。全国学会との関係で東京に近いところというのが理由の一つだった。前橋の南郊外、前方後円墳の古墳群の只中、付近には前橋藩政時代の街道の松並木等の史跡が残る団地が定められた新居だった。退職後も研究を続けられ、何冊かの研究書を出版し、『札幌学院大学人文学部紀要』に論文を寄稿された。

札幌商科大学という単科大学から、人文学部、法学部、経済学部、社会情報学部を順次に開設し、札幌学院大学にいたる過程で本学の骨格形成に尽力された一人が北爪真佐夫先生だった。

葬儀の様子等は、北爪先生在職中から共同研究を誘ったりしてフォローされていた人文学部、社会学担当の内田司先生から伺った。

あらためて北爪真佐夫先生のご冥福を祈りたい。